

# 夏号

# (一社) 神事協 よこはま

2021.6. No.17



みなと横浜の新しい風景

一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会 横浜支部  
<https://www.kkj-yokohama1.jp>  
E-mail : yokohamashibu@kkj-yokohama1.jp

## Contents

- 第9回定時総会を終えて…02
- 定時総会記念講演について…02
- 指導委員会活動…03
- 景観・まちづくり特別委員会活動…03
- 木造専門委員会活動…03
- 仕事展・セミナー部会について…04
- 広報・企画委員会活動…04
- 横浜支部 会勢報告…04

## 第9回定時総会を終えて

### 支部長 小澤 勝美

(一社) 神奈川県建築士事務所協会 横浜支部 第9回定時総会が4月23日(金)午後2時30分より横浜市技能文化会館にて開催されました。今年も新型コロナウイルスの影響で支部長、副支部長のみの出席による横浜支部会員の書面表決で行いました。その結果、会員総数251名(過半数126名)のうち書面表決提出数170名、第1号議案「令和2年度事業報告承認の件」及び第2号議案「令和2年度決算報告承認の件」共全員の賛成で可決され、第3号議案「支部役員承認の件」は169名の賛成で可決されたことをご報告します。

現在は昨年と同様、新型コロナウイルスの影響で、セミナーや講習会のWEBでの実施、オリンピック開催の是非、テレワークの推進が進められています。Withコロナということで新たな生活スタイルが様々な形で生まれ、Afterコロナを見据えて行動する時期だと考えます。

最近の新聞紙上で賑わすのはDX、SDGs、脱炭素、無線送電、アンモニア、水素、EV、AI、コロナ等、建築界ではBIM、働き方改革、週休2日、WTO、CPD等。

現在、建築設計業界はコロナ禍ではありますが、あまり悲観的になることはないと思われます。ただ、現状維持ではなく、BIMや脱炭素、木材利用促進等の新たな技術の研鑽や少子高齢化による人材育成等を切磋琢磨できる仲間と共にこの業界を盛り上げたいと思います。

今回は一生に一度の機会と捉えつつ、今後も起こりうることだと考え、各自の建築士という環境の中で、我々の知恵を発揮することが求められます。今後も、建築士事務所の地位向上と地域の建築文化の更なる貢献に向けて活動していきますので宜しくお願いいたします。



支部長あいさつ



定時総会の状況

## 定時総会記念講演について

### 副支部長 平山 正義

近年、木造に対する取組において、国内の森林資源活用や地球温暖化対策に伴う木材活用の取組がクローズアップされています。

そこで、環境時代の都市木造や学校建築の木造化について、木材活用の地域連携・地材地匠について、神奈川の取組も交えつつ、モリとサトとマチが繋がっているのかを元東海大学教授の杉本洋文先生にご講演いただきました。

まず初めに、木材を利用することは「CO2を固定すること」であって、その結果まちの中に第2の森をつくることとなります。低炭素社会の実現は、高炭素蓄積社会の構築でもあるわけです。

公共建築をはじめ、多くの用途に木材を多用するには、林野庁、経産省、国交省の枠を超えてJAS材の普及が重要とのことです。また、高齢化の波を受けて製材所の閉鎖も課題になってきています。但し、現在では2時間耐火構造で4階までの建物であれば、いつでも建てられるようになっていきますし、構造的には「立面混構造」「平面混構造」「メンブレン」等の技術も発展してきています。

実践的に木材利用を考える場合には、企画段階から構造材のコスト目標を0.3m<sup>3</sup>/m<sup>2</sup>に抑える等の戦略が大切とのことです。他の構造とのコスト比較では、2000m<sup>2</sup>以下であれば木造が安いとの結果が出ているそうです。

「接合部の設計」が肝要で、性能的なレベル設定も重要で、温熱環境の検証や音の対策も避けて通れません。

最後に杉本先生の実作品を、設計上の様々なアイデアや工夫を伺いながら紹介いただきました。あたかも骨太の物語を聞いたような厚みのある、しかも多面的で立体的な講演内容でした。ありがとうございました。

なお、最新刊「キズカイのケンチク」に詳しく掲載されています。ぜひ購入下さい。



講演状況



最新刊を手に

## 指導委員会活動

毎月のWEB委員会、毎水曜の電話や面談による建築相談、年2回以上の調査鑑定事務所対象の講習会を行っています。直近は、緊急会議で八王子アパート階段崩落の件で2回実施しました。山口委員長のサポートのもと、知恵袋の棟委員だけでなく全ての委員が積極的に意見を述べ、活発に活動しています。

最近の「机の隅に」の掘り下げ講習会では、3日間に渡り7人のメンバーが講師となりオリジナルレジメでノウハウを公開。WEBだからできる何百ページもの資料添付と価格の安さ、聞き逃しの人にも再度公開など、事務局にも大変協力していただきました。レジメの中には、電子ブックで3,000円でも欲しくな

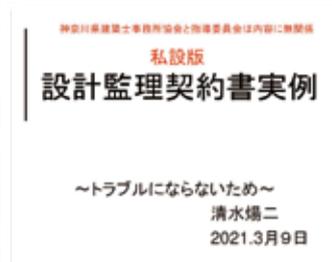
### 副委員長 清水 煬二

る、「用途変更の実例ノウハウ」もありました。

会員の皆様を守ることをメインテーマにし、調査鑑定事務所の発展方法や登録増も考えています。



WEB講習会 講義状況



講習会レジメの表紙例

## 景観・まちづくり特別委員会活動

昨年度は、コロナ禍によりまちあるきや勉強会・シンポジウム等を開催できませんでした。

毎月行っている定例会議は、緊急事態宣言により3、4月が流会となりましたが、5月以降はいち早くZoomによるオンライン会議にて支障なく運営してきました。

コロナにより延期になっていました相模原市景観整備機構指定勉強会については、Zoomウェビナーにて1年越しの開催ができました。

今回の勉強会では、事前学習用ブログ記事発行、現地インタビューおよびメイキング映像の作成、そしてリアルタイムの現地中継を含めて実施ができ、さま

### 委員長 寺本 勉

ざまなスキームを得ることができました。これを機に勉強会・シンポ等もWEB化し、まちあるきではハイブリッドに運用していきたいと思えます。

新たに発行したニュースレターやブログ記事も是非ご覧ください。



オンラインによる委員会



勉強会現地からのライブ配信



## 木造専門委員会活動

本委員会は、木造全般について会員の技術指導、技術向上を図る活動をしています。昨年は、見学会が中止に、委員会もWEBになるなど、新型コロナの影響を受けました。今年に入ってから状況は変わりません。そんな中、当委員会の山中信悟副委員長の設計による、限界耐力計算法で構造適合判定を受け、確認済証を取得した建物（個人住宅）についての講習会と見学会を行いました。講習会はWEB開催とし49名の参加者がありましたが、WEBゆえの利点として、県外遠方（鹿児島・奈良・徳島・三重）からの参加がありました。

また、見学会は、コロナ禍の影響を考慮し4回の

### 副支部長 千賀 浩一

入替制としましたが、特に混乱もなく、コンクリートも構造金物も合板、集成材も用いない貴重な建物を見学することが出来ました。

これからも木造全般について発信していきます。ぜひ皆様のご参加、ご協力をお願いいたします。



講習建物外観



講習建物内部詳細

